

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 うえだ企画 グループホーム かやぜの里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県大村市田下町473-1
記入者名 (管理者)	上田 のぞみ
記入日	平成 20 年 9 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時にその時の職員と一緒に理念を掲げた。理念の実現を！と日々取り組んでいるが、まだ不十分で、理念の理解が統一されていない部分もある。		理念の思いを再確認し、地域の中でとは何か？ 明るく、楽しく、元気よく……とは何か？と職員全員が同じ思いを持つように努力していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関に文字として掲げているが、職員全員と共有するまでに至っていない。		夜勤者からの引継ぎの際、理念の輪唱の徹底。管理者が職員に想いを伝え続け、その想いで入居者と寄り添う気持ちになってもらえる様に努める必要がある。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族全員に周知されていないが、地域の方々と町内の行事などに参加させて頂き、ホームの様子を知り理解していただけるよう、取り組んでいる。		近隣の方々が参加しやすい環境づくりを行い、一人でも多くの方々に理解して頂くように考えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出勤途中や、散歩など挨拶を交わしたり、町内の行事に顔を出したり交流を深めている段階である。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域運営推進会議を通したり、学校行事、地域のボランティア受け入れや、祭りごとの参加など交流の場を増やしつつある		今後も継続的に交流を行い、町内・保育園・学校などの行事の情報を集め積極的に参加していこうと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護、サービスについてなど相談窓口になれるよう、気軽に立ち寄れるように看板を掲げたり、電話での相談等の取り組みをしている。		地域運営推進会議などを通じながら相談を行っていることを広めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員はまだ意義の理解は不十分だが、毎年評価頂いたことを具体的に実行できるように、改善策は講じている。しかし、完全に取り組めていない部分もある。		職員各自の再確認のきっかけとなるはずなので、自己評価は各自取組んでもらう。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、先月に昨年度の分を報告させて頂いたが中身の詳しいところまで報告できず、意見を頂くところまで至っていない。		もう少し関心を持って頂く為には？ 思考中
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、行き来はしてホームの状況を、報告したり、アドバイス頂きながら積極的に質の向上に取り組む努力はしている。		今後も長寿介護課に出向き報告・連絡・相談をしながら、連携を取って行く。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなかなかとれず、ホーム内勉強会でも予定しているが、まだ、制度について職員は熟知していない状況である。		セミナー等あったが参加できなかった、今後ホーム独自に勉強会などを行っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や、ホーム内勉強会を通して学ぶ機会を設けなるべく多く参加して学べるように配慮している。ケア全般において虐待については最重要項目として防止の徹底を図っている。		今後も継続的に勉強会を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事前に訪問したり、ケアマネを通して情報収集しながらコミュニケーションをとりながら理解、納得を図れるように努力、工夫をしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見は、記録に残しすぐに管理者に報告するようにしている。内容の確認をして対応しているが、全員の意見を把握する努力、代弁していく努力が必要である。</p>		<p>出勤時に記録の確認、情報収集の徹底、必要事項はメモを取るなど取組んで行こうとしている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「月次報告書」を通して、個々のご様子は報告してるが、ホーム全体のことや職員のことなど報告は出来ていない。</p>		<p>家族面会時には、事務所などにて近況報告などを行っていきたいと思っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に設置の意見箱はあまり機能していない。なかなか率直に意見や不満を言えるような機会は作れてない現状である。</p>		<p>交流会など親睦を深めるように努め、運営及び日常生活などに 対して意見などを聞けるように頑張っていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の職員会議で、意見交換や業務改善など提案を聞く機会は設けている。</p>		<p>管理者と職員との個人面談を9月より行い始め今後も定期的に行おうとしているところである。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出や、夜間の行事への参加、急変時など臨機応変に管理者、主任などが中心に職員の調整に対応している。</p>		<p>新規職員雇用(増員)により、10月より柔軟な対応ができるように努めようとしている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年度より、管理者の変更をし新体制で取り組んでいるところである。離職者を抑えるために研修への積極的な参加や、職員ミーティングなどをまめに実施し、職員からの意見を取り入れながらの職場作りを目指している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内の各種セミナー、研修への参加、管理者の実践リーダー研修、ケアマネの専門課程研修への参加などをはじめ、今年度よりホーム内勉強会も定期的に行っている。勤務の体制もなるだけ配慮し、学ぶ機会を提供している。		他GHへの研修も定期的に行い、サービスの質の向上に努めたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の中で、「相互評価」や職員の「交換研修」など行われており、参加し交流の機会を持っている。親類の経営するホームも市内にあり、研修に参加させて頂いたり、互いに情報交換したりもしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務希望をきちんと反映させたり、休憩時間も交替で取ることで確保に努め、コーヒー等も自由に摂れるようにし、伸び伸びと仕事ができるような職場作りに取り組んでいる。		現在一人で過ごせる休憩場所が不十分なので、職員の意見を確認しながら確保予定。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			現在どうすればよいのか検討中
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	直接、家庭訪問などを通じて、家族、本人、関係者とお会いして、状況把握し、十分に話をお聞きする機会を入居前に作るようにしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	23と同じく、その他、時と場合によっては、ご本人と席を離れた場で話を十分にお聞きし、本音の部分を聞けるように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その他のGH情報や、GH以外のサービスや、介護保険外の情報などフォーマル、インフォーマルも問わず情報提供して一緒に対応を考えている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家庭訪問はもとより、ご家族ご本人にホームの見学に来て頂くようにしている。自然に囲まれた環境、ホーム全体の雰囲気、職員、利用者様など全体の大まかな様子を把握していただくよう工夫している。		今後はディサービス利用を行いながら、ホームに馴染み入居となるようなかたちもとって行こうと思っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にする、ということで支援させて頂いている。年長者、人生の先輩として、尊厳をしっかりと持って、時にはお尋ねをしたり、家事を手伝って頂いたり、一緒に笑ったり、怒ったり、悲しんだり、一日一日を大切に！と思っている。		全職員がその想いになってもらえる様、管理者が想いを伝え続ける必要がある。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランを通して、一緒に考え、情報交換しながら家族の本音を聞けるような信頼関係の構築を目指している。また、面会時や家族親睦会時にはゆっくり話す機会を作り円滑にコミュニケーションが取れるように取り組んでいる。		同左親睦を深めゆっくりと共に支える関係を保っていききたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人とホームとの距離は、それぞれに違い、入居時に十分にアセスメントしながら把握するようにしている。今までの生活の歴史、家族との関係の深さを知った上でケアをすすめていけるよう努力している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に来て頂き、一緒に外出なども積極的にして頂いている。近所に自宅ある入居者様は、時々犬にえさやりに出かけたり、町内の行事に参加されている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席や、散歩や、お手伝い、外出時の車の乗り合わせなど、気の合う方同士に配慮したり、入居者様間で声を掛け合ったりして関わり合いの様子を見たり、十分に関係を把握しながら支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特に、在宅に戻られた方などは、家庭訪問したりケアマネと情報交換したり、電話でご相談を受けたり、出来る限り支えになれるようご配慮させて頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族にお尋ねしながら、ご本人の言動、行動、生活歴などアセスメントしながら意向の把握に努めている。思いや、意向の本質の部分を知ることが大切で、すぐに把握できないこともあるので時間の経過をみながら検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時をはじめ、情報収集しながら十分アセスメントできるよう努力している。ご本人からも同時にお尋ねしながら、これまでの暮らしの楽しかったこと、つらかったことなど事実確認をするのではなく、発せられる言動の内容に着目して、何を大切に生きてこられたかを予測、代弁できるように努力している。		全職員がそうなるには？思考中。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で情報交換し、日中と夜間の様子などの違いなども把握できるように記録、申し送りなどより現状把握に努めている。有する力等は発揮できるように、引き出すことも出来るので、時間を少しかけながら把握していきたいと思っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者や介護担当者を中心に、他の職員からの聞き取りや、主治医からのアドバイス、職員会議などを反映させ、家族へも意向をケアプラン作成時に毎回お尋ねしながら作成している。		職員間において情報共有を行い、介護計画の意見やアイデアをもっと聞き入れたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々のケアは、変化に応じて話し合いをしながら臨機応変に対応している。極端な言い方をすれば、ケアは毎日変わることもあり得る。実際紙面上で見直し期間に訂正はしていないが、実際のケアとしては変化に対して新たなケアを実施している。		全職員にアセスメント、ケアプランは？そこから説明し、まずは入居者の目標を皆で確認する必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は2種類使用して、身体面の観察記録と、「フォーカスチャート方式」にて経過記録がある。情報の共有や介護記録の見直しのほかに、職員の気づきのツールとして、入居者様の「日々の日記」を綴らせて頂いているような意味合いも、当ホームの個別記録には含んでいる。		職員会議などにおいて、記録の記入の仕方を確認し共有できるように努力している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型のデイサービスの利用も可能である。利用の延長なども可能で、なるだけ要望に応じていただけるように努力している。		共用型デイサービスの日曜、祭日利用可能に努力している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域運営推進会議等を通じて、町内会長、民生委員など意見交換し、ホームの現状を把握して頂いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	身体面の変化や、家族の事情など必要に応じて、他のケアマネや介護保険施設などとも話し合いをして、サービスの移行をさせて頂いたり、他のサービスの活用の支援はしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者様の権利擁護サービスの利用における協力や、家族の意向等も配慮させて頂きながら配慮している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である医院と、24時間医療連携も契約させて頂きながら週に1回の訪問診療も受けている。緊急時も医院に相談しながら安心して医療を受けられる体制作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	上記医院の医師2名や看護師に相談しながら、また市内の脳外科医等への受診も可能である。家族とも話し合いながら受診の支援は行っている。		家族と充分話し合い必要と思われる場合は対応したい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内に看護職員も勤務しており、また連携医院の看護師も入居者様の状態把握していただき、24時間対応にて気軽に相談できる人間関係もあり、連携を持って支援させて頂いている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院される病院には、十分に情報提供できるよう、紙面でも「介護情報提供書」を提出し、病院関係者、ご家族と情報交換しながら面会にも頻回に行きながら安心して入院できるように配慮している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期のケアについて指針を作ってはいるが、まだホームとして具体的にどのようにケアを勧めていくか検討中である。近々職員勉強会や、会議を開いてホームの方針を決める予定である。		他ホームに重度化、終末期のケアの情報をいただき、本人や家族と相談しながら行っていきたいと思っている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	47上記内容のように、支援をさせて頂けるように検討、準備中である。		47上記内容と同様。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む時期など、ご家族や関係者間で十分に話し合いながら決定している。事前に予測されることなど配慮しながらすすめていくようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>方言を使ったりはあるが、尊厳の気持は忘れずに声をかけていくよう努力している。記録物に関しては個人別にファイルに整理し直して取り扱いに配慮している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者様の「代弁者」でありたいと思っている。思いを表出いただけるように、信頼関係を築いていくことに努力している。何事も、きちんと説明をして、納得して生活を営めるように配慮している。</p>	<p>全職員がそうなるには？ 思考中。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな一日の流れは決まっているが、食事や、入浴などご希望をお尋ねしながらペースを大切に出来るように努力している。</p>	<p>職員全員で一人一人のペース把握できるように、記録に記入したり情報の共有に努めている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>外出時の衣服の調整を一緒にしたり、日々身だしなみを整えたりはあるが、理容・美容は特に希望がなく、ホーム内に近隣の方が来てくださっている。その他ご希望があれば沿うようにしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>全員ではないが、食材の下ごしらえ、味付けや、盛り付けなどして頂けるように積極的に声をかけている。時には調理方法などもお尋ねしながら、なるだけ関わって頂けるように配慮している。</p>	<p>今後も一緒に料理作りをおこなったりしながら、共に楽しみ喜びを感じて頂きたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お一人お一人、好みを把握してお出ししている。食事はもちろん、コーヒーや、おやつなど楽しめるように細かく配慮している。</p>	<p>メニュー決定時に利用者様の意見を聞くようにしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	寝たきりオムツ使用であられても、一日一回はトイレに座り排便して頂いたり、パターンや、しぐさなどご様子を把握して時間毎にトイレにお連れするようにしている。		今後も継続的にしていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	「寝る前に入りたい」と希望される方には、そのように対応して、失禁された場合などいつでもシャワー浴、入浴が出来るようにしている。大まか、入浴日は決めていたが行事などに合わせて変更している。		拒否のある方は無理意地はせず様子を伺いながら声をかけさせて頂いている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠量や、活動量、入浴の有無なども考慮しながら、休息できる場所も、居室や畳の間など状況に応じて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一緒にコーヒータイムをしたり、お天気がよければ散歩に行ったり花を摘んだり、おはぎを作ったり、保育園の運動会の応援や、趣味の大正琴を居室でたしなんだり、入居前からの趣味の絵画を一日中好きなだけしたり、一日一日を張り合いのある生活になるように支援している。		一部であるが、お手伝いをやりがいに思われている人もおられるので、今後も一人一人に合わせた楽しみを探していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、基本的にどなたもされていない。入居時よりされていないが買い物に行く機会が少なくお金を所持する状況をなかなか作っていない状況である。		買物など一緒に行ったりしながら、自分が好きな物を買ったりできるように努力していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一緒にホームの買い物にお連れしたり、花の季節には花見のドライブ、気候がよい日は毎日散歩。地域の行事への参加など頻りに戸外に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	61、に同じく、外出への支援は積極的に行っている。花見、ピクニック、ご家族間での墓参りや、温泉旅行などもご家族の意向に沿うように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、こちらで電話をかけたり、ご本人持参の携帯電話にご家族からかかってきてご本人が出たりはあるが、手紙を書いてもらったりなどのやり取りはしていない。		年賀状はどうだろうか？検討中
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、どなたでも訪問歓迎している。介護相談員の受け入れも積極的に行い、訪問時は居室でゆっくり過ごして頂いたり、一緒に食事にお誘いしたりもある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修はもちろん、ホーム内勉強会でも意義を十分に理解し、身体拘束をしないケアを徹底している。		ホームなくても勉強をしているが定期的に勉強会を行ったり研修会の機会があれば順次参加していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、どこも鍵をかけることなく過ごしている。(安全面の為、リビングの学校側の窓と、裏口のドアは転落防止の為、鍵を閉めることがある)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に、居間、一階、二階の居室も職員間で声を掛けあいながら把握に努めている。二階はモニターを設置して、トイレ使用なども観察できている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみも、包丁も、裁縫道具なども使用してもらっているが十分に見守りながら、個々のご様子に応じて対応している。食事の配膳なども手の届かないところで準備して、直前に目の前にお出しすることもある。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修会への積極的な参加をしながら、知識・スキルを学んでいる。現場で実際に入居者の急変時などを通して、学びを実践しながら振り返り、職員全員で学びの共有している。「ひやりはっと・事故報告書」に記録を残しながら、リスクマネジメントを徹底していきたい。		ひやりはっとの記入を徹底していきたい。(ハインリッヒの法則を参考 小さなヒヤットが大きな事故につながる)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に行ってはいないので、今後はホーム内勉強会などを通して行っていきたい。		同左
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な火災訓練はしているので、的確に冷静に行動できるように身体に覚えさせ、身につけていきたい。まだすぐ近隣の方々との協力も得られるように、働きかけて関係作りを勤めていきたい。		火災訓練においては、実施日を早めに決め近隣住民や地域運営推進会議のメンバーに参加を促したい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランと一緒に計画していくときに、リスクも十分に説明して対応策を検討していくようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサイン測定をはじめ、内服薬の変更の有無、全身状態を観察しながら、申し送りの徹底をして対応に結び付けている。		今後も利用者一人一人の変化に気付き、職員間の情報の共有に努めていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	まだ、全職員が理解しているとは言い難い。介護担当者を決めたので少しずつ個々に把握していけるように努力している。服薬支援についても留意点などマニュアルを作り、誤薬のないように努力をしている。		同左
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動、食事、飲水などに工夫をしながら取り組んでいる。排泄パターンを把握してトイレに座って頂いたり、タイミングをはずさない努力もしている。主治医とも相談しながら緩下剤の与薬や、座薬、浣腸使用などで最終的な対応としている。		座薬、浣腸の使用に至らないように、勉強会などで確認をしていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	基本的には、毎食後の口腔ケアは徹底している。歯科医との協力にて、往診に来て頂きながらアドバイスをもらいケアに生かしている。		歯科医との連携をとり口腔ケアの意義を再度確認していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量の確認をしながら、主食をおにぎりにしたり、おかずを刻んだり、量の調整をしたり、体重管理をしながら個々に合ったものを提供している。		外部の栄養士などを呼び、カロリーまではいかないが、内容のバランスなどを定期的にお聞きしたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しているが、全職員に周知できているとは言いがたい。手洗い、調理、汚物の管理等は職員会議などを通して、注意を喚起している。		研修会などに参加を行い、ホーム勉強会につなげ全体への徹底を行いたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に、冷蔵庫、食材棚など清掃している。ふきんやおしぼりなども毎食、塩素系の洗剤にて衛生的に取り扱っている。食材も消費期限などに注意して新鮮間のもを提供できるように配慮している。		同左のように実施しているが意識的に行えるように78上記したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	夏場は、居間の窓越しにへちまを植えて、つるがつたって風情良くしていたが、玄関前はプランターに花を植えたりしたが枯れてしまい、今は閑散としている。		玄関周りは利用者さんと花壇やプランターなどに花を植えたりと共に工夫を行っていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を、花瓶に飾ったりカーテンやブラインドを利用して調整している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には畳の間があってゴロンと横になったり、洗濯物をたたんだり、縁に座って話したり、2階廊下にはソファがあり、ゆっくり座ってくつろげる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭からの持込は自由にして頂いている。使い慣れた座椅子や、タンス、小物など好みのものを居室に置いて頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	調理場、トイレは換気扇を常時入れて換気に努めている。汚物は屋外のゴミ箱に入れるようにしている。居間には快適計を設置して、確認をしながら冷房、暖房調整をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や、トイレ、風呂場の手すりなど動線にあわせ追加で取り付けなども行った。床面も滑らないように適宜拭き掃除したり、安全と自立の確保を考慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かること、分からないことを見極め、表示すること、繰り返し行動することなど個々に合わせて混乱を防ぎ、安心して過ごせるように配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは広く、洗濯物を干すだけでなく、一緒に景色を眺めたり、皆でお茶やおやつを楽しんだりしている。外もスロープもあり、車椅子でもスムーズに出ることが出来、日向ぼっこや散歩なども適宜行っている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)